

第17回事故防止誌上講習

今回は耳にタコができるほどよく聞く「思い込み運転」について記し、併せて「思い込み運転とリスクテイキング」の関連性についても触れてみたいと思います。

「思い込み」や「決めつけ」は往々にして外れることが多く、かつこんな時に事故を起こし易いものです。それは注意力の欠如から"キケン"がみえない状態に陥るからです。

そこで「思い込み運転」に陥る背景を箇条書きにし、簡単に理由を記しますと次のとおりです。

1 過去の経験によるもの

今迄同じ場所を走っていて危険な状況に遭うことがなかった。

2 時間からくるもの

早朝、深夜の時間帯に車、自転車、歩行者が現れることなどなく、走っているのは自分一人位と思い込む。

3 自分の価値観によるもの

交差点の信号が黄色に変わった瞬間、前車はそのまま突っ切ると思い、スピードを緩めず進んで追突する。

4 急ぎの心理からくるもの

時間に間にあいそうになくなると自分の都合のいいように考え、道を譲ってくれるだろう、しかし逆の立場になると"自分は急いでいるんだ！なにくそ譲ってやるか！"と自己中心に陥る。

5 確認することを面倒がる

後退する際、夏日の急な夕立や冬の寒風、降雪時は早く運転席に戻ろうと、ついつい、後方の安全確認するのを邪魔くさがる。

6 他車に追従している時

前車に続いて信号待ちして青で発進するとき、前の車も発進するだろうと思い込み先に発進したため追突する。

7 めったに車が通らない交差点で1台がたまたま通過したりするともう車は来ないだろうと思い込む。

以上「思い込み」や「決めつけ」運転に陥る背景を列挙しましたが、運転していると誰でも一度は"ヒヤリ・ハット"の経験がありますし、事故になってしまった人もいでしょう。では何故「思い込み」や「決めつけ」運転に陥るのでしょうか。これはやはり運転経験からくる"慣れ"が大きな一因でしょうが、それと人夫々の性格もあると思います。誰一人として全き人間はいないので自分の悪い性格を運転中は極力抑えるよう日々努める必要があります。

道路状況は目まぐるしく変化しますし、人の行動を自分勝手に考えないことが大切です。

また、天候が事故に大きな影響を及ぼすことは充分ご存知のはずです。

以上を踏まえ、心に"ゆとり"をもって運転することが大切です。トラックドライバーにとって事業所からあてがわれたトラックは自分の片腕と同様であり、出発前、"今日も無事故でがんばろう！"とトラックに話かける位の気持ちでトラックに接してみるのもいいのではと考えます。

「思い込み」や「決めつけ」運転に陥るのを防ぐにはミーティング等で"ヒヤリ・ハット"体験を話し合い、具体的な防止策をみんなで協議することです。また"危険予知トレーニング"も欠かせません。危険予知の訓練、ヒヤリ・ハットをみんなで共有し、危険予知能力の向上が必要です。

事故はほとんどがドライバーのミスによるものと云われています。"油断・焦り・思い込み"は禁物です。

"ヒヤリ・ハット"や"危険予知トレーニング"をいくら机上で「思い込み」や「決めつけ」運転の危険性を学んでもリスクテイキング、つまり危険な行動をしては何にもなりません。

危険な運転をしていても無事に何事もなく走行できていると"油断・焦り・思い込み"の心理状態に陥り易いものです。例えば荷物を届けるのに時間に余裕がない場合、どうしてもドライバーは遅配のため、荷主側から一言小言を聞くよりも時間どおりに届けて、ねぎらいの言葉をもらう方がずっといいということで交通ルールを破ったり、荒っぽい運転をしたりして後者の方を選択（所謂前者と後者を天秤にかける）していると危険な行動が当たり前ようになってしまいます。

トラックドライバーの皆さん、運転をしない休みの日には一週間の運転方法、ヒヤリ・ハットの有無を省みて、次の週の運転に役立てて欲しいとおもいます。

以上

今回の原稿作成にあたり、"月刊自動車管理 5月号"を参考にしました。